

学位論文内容の要旨

		要 旨
学位申請者	小島 唯 【ライフサイエンス専攻 平成26年度生】	<p>本研究は、学校給食で使用される食品の寄与率に基づき、赤黄緑の 3 色食品群の食品分類を提案し、栄養教育プログラムの開発を行った研究である。目的に沿って、3つの研究が行われた。</p> <p>【研究 1】学校給食献立に対する食品の寄与率及び赤黄緑の 3 色食品群を用いた食品分類の検討</p> <p>学校給食献立に含まれる食品の各栄養素に対する寄与率を用いた食品分類を検討した。東京都の公立小学校 16 校より収集した 192 日分の献立から抽出された 214 食品、延べ 4,811 食品を解析対象とした。食品の栄養素に対する寄与率の 90 パーセンタイル値と 3 色食品群の各群の定義を用いて、食品は 8 つのカテゴリーに分類された。1 つの群にのみ寄与する食品は少なく、多くの食品は複数の群の働きに寄与していた。</p> <p>【研究 2】小学校における赤黄緑の 3 色食品群を用いた栄養教育の現状</p> <p>小学校における赤黄緑の 3 色食品群を用いた栄養教育の現状を把握することを目的とし、東京都及び千葉県の小学校に勤務する学校栄養士 327 人に横断的自記式質問紙調査を実施した。給食時間において、約 7 割の者が 3 色食品群に関する栄養教育を行っており、学年別では 5 年生で実施する者が多かった。授業時間においても 5・6 年生で行う者が多かった。これより、高学年を対象とした給食時間のプログラムが用いられやすいと示唆された。また、大多数の学校で、3 色食品群を給食だよりに掲載し、校内へ掲示していた。</p> <p>【研究 3】栄養教育プログラム「栄養素のはたらきと食品の関係を学ぼう」の開発と実行可能性の検討</p> <p>研究 1 と研究 2 より、赤黄緑の 3 色食品群に基づいた、食品の寄与率を用いた食品分類を取り入れた栄養教育プログラムを開発し、その実行可能性を検討した。東京都公立小学校 2 校の児童 129 人を対象として介入群と対照群に分け、介入群にプログラムを実施、児童両群への事前事後の質問紙調査を行った。栄養素の働きと食品との関係についての設問で正答率が上昇し、1 つの食品がいくつかの栄養素の働きを含んでいることは学習可能であることが示唆された。一方で、各食品に含まれる栄養素量の概念に対する理解は難しかったことが示唆された。</p>
論文題目	学校給食を活用した栄養教育に関する研究 —学校給食献立に対する食品の寄与率に基づいた食品群を用いて—	
審査委員	(主査) 教授 赤松 利恵	
	准教授 須藤 紀子	
	教授 藤原 葉子	
	教授 香西 みどり	
	准教授 富士原 紀絵	